

日本における女子体育とジェンダーに関する研究

高上莉奈子 (愛媛大学)

1. 目的

本研究では、ジェンダーとスポーツの中でも特に、学校体育に着目していく。その中で、女子は男子と区別され「女子体育」として異なる位置付けを与えられてきた。これにより、どのような役割を担っていたのかを考察していき、女子体育の先駆者と言われる井口阿くり、女子体育の普及に努力した二階堂トクヨや藤村トヨたちの理論や主張から、これからの学校体育にあてはめ考えていくことを目的とする。

2. 研究方法

本研究は、女子体育およびジェンダーに関する文献をもとに考察を行った。

3. 日本における近代学校体育の成立

明治期に入り近代国家の形成手段として富国強兵策がとられた。その富国強兵策を推進するため強壮・強健な身体を持つ国民を育てることが重要な課題であった。また、1886年の「学校令」で体操科は必修科目となり、1913年の「学校体操教授要目」で、「兵式体操」は「教練」と名称を変え、体操科の教材は整理・統一された。大正期に入ると、身体を積極的に運動によって鍛錬することの重要性が認識されるようになっていき、1942年の「体錬科教授要目」の制定により、学校体育の軍国主義化も極まっていた。第二次世界大戦後の学校体育においても、軍事色の払拭が図られ、戦前の体操中心主義もスポーツ中心に修正されていった。平成元年の改訂では、男女別に構成されてきた体育のカリキュラムが男女差を解消し行われるようになり、学校における男女共習の道が開かれることになった。

4. 女子体育の発展と課題

日本が近代国家として基盤を固める明治20年代に女子体育は飛躍したとされている。そして次第に女子体育の必要性の自覚が世の中に浸透していくのだが、それと同時に「女子体育は女子の手で」というように、女性の一般的自覚と社会的視野の拡大が伴

って必要とされた。

(1) 井口阿くり

日本本的女子体育の方向性を論じ、体操遊戯の教授法に関する女性の役割や、運動場の整備や女子の服装の改善を説き、女子体育の必要性を強調した。

(2) 二階堂トクヨ

女らしい体操家を育成することを主眼に、体操や遊戯を教える傍ら、スウェーデン体操を広め、女子体育の発展に生涯をささげた人物である。

(3) 藤村トヨ

ヨーロッパの体育を視察し、女子の服装・姿勢の研究で独特の理論を展開するとともに、女性の健康と体位向上をはかって女子体育を発展させ、日本人の体格・姿勢・服装の改善に力を注いだ人物である。

5. 結論

体育やスポーツは時代の要請と共に動かされ、常に国家との宿命的結びつきを余儀なくされてきた。しかし、女子の体育やスポーツはそれ以上に、時代に流され翻弄されてきたといえる。

これからは、男子と女子として分けて考えるのではなく、一人の人間としての体育科教育が再考されなければならない。そして、これまで伝統的に行われてきた画一的な「男女別習型体育授業」は変わっていかなければならないだろう。体育の形が変化してきた背景には、それぞれの女子体育のパイオニアたちの個性が時代の制約を明瞭に反映していて、時代の要望を見事に果たしてきたことが伺える。男女は比べるものではなく、一人の人間として認めた上で、女性の特徴を考えていくことや、女性自身が活動的に取り組んでいくことが、これからの女性の体育にとっても重要になるのではないだろうか。

6. 主な参考文献

- 1) 上沼八郎 (1968) 近代日本女子体育史序説。不味堂出版。
- 2) 岸野雄三・竹之下休蔵 (1983) 近代日本学校体育史。日本図書センター。